

東京南翔会「皇居見学会」

21年10月28日、爽やかな秋の日の午後、東京南翔会のメンバー13名は皇居桔梗門前に集合。榎東京南翔会長を中心に、一般参賀以外中々立ち入る事の出来ない、非日常の皇居を見学して来ました。その模様をお伝えします。



ここ皇居の前身江戸城は、1457年太田道灌の築城に始まり1590年北条氏滅亡と同時に徳川三代により日本の政治文化の中心となり、明治維新以降、1000年以上住み続けられた天皇が京都から移り、今、皇居となっているところです。

秋の日を浴びて、鴨が寛いでいる桔梗門をくぐり、最初に案内されたのは、元枢密院の建物の前にある窓明館で、見学の説明を受け、富士見やぐらに向かいました。向かう途中にある石垣のところどころに、旧藩の紋所が彫られており、これは石垣を提供した藩が、分かるようにとの目印だそうです。其の石垣を抜けると、やがて見えてきた富士見やぐらは、武器庫だったのですが、白壁で櫓は高く石垣と合わせて30メートルで、そのむかし、時々時の将軍がここに登り、品川の海や、富士山を見たそうです。



夏には大輪の蓮で埋め尽くされるという蓮池豪を右手に見て、戦後一時期仮宮殿としても使用された宮内庁庁舎が見えてきます。坂下門を左下に見ながらさらに進むと松の塔の先にお正月に天皇皇后陛下への一般参賀で国民に良く知られている宮殿東庭が現れます。足元は水はけの良い香川産の石が敷き詰められ横には、機械を使わず全て職人により刈り込まれ手入れの行き届いた千草・千鳥の間の庭を見ることが出来ます。



この宮殿東庭の後ろが宮殿で、ここは見ることは出来ませんが、儀式行事が行われる正殿・豊明殿・長和殿などからなり、大切な外国からのお客様も招かれます。宮殿東庭の印象は、機会があり見て回った海外、特に欧州の各国の宮殿に比べ、大変シンプルで、畏敬を与えないながらも気高く、清廉清楚を感じるものでした。

さらに進みオリジナルの二重橋の正門鉄橋（深い堀の橋げたが二重であったことから、二重橋と呼ばれた。）を越えると右手に伏見やぐらが見えます。このやぐらは三大将軍家光が、遠路京都伏見城から移築したものだそうで、ここは皇居の中で高いところにあり、湿度が低く、今は、宝物、書籍が保管されているところです。華麗な石垣の上に立つ伏見やぐらは美しく、関東大震災の時も無傷だったそうです。



一時間半は「あっ」という間で、ここで見学は終わりですが、皇居は都心に在って四季折々の花が咲き、鳥がさえずり、緑美しい場所で、日本の近代史を秘め、今尚日本の中心として歴史に年輪を積み重ねています。日本人であれば、一度は行ってみたい場所皇居。私個人としても、皇居前は毎日の通勤コースでもあり、常々想いつつしかしチャンスが無かったのですが、今回東京南翔会のお陰で皇居訪問し、日本近代史の一端を垣間見る事が出来ました。そしてまた日本を見つめる機会を少し持つ事が出来たように思います。

秋田の皆様、そして全国に出られている皆様も、次の東京南翔会の皇居訪問の際には、日本人の原点、其の近代史に是非、触れて見てください。 4期 保坂 文武 記



伏見櫓前に勢揃い

今回の皇居見学は横手青陵高出身、皇宮警察柔道最高顧問である佐藤哲也様の特段の御手配で実現しました。感謝申し上げます。写真撮影・アルバムは榎が担当しました。



1期 平塚御夫妻



1期 水野、小笠原、富永



1期 大山前東京南翔会長

皇居案内図



1期 鎌田



2期 波多野



3期 木本、栗原



3期 佐々木



4期 保坂



1期 榎東京南翔会長



長和殿と宮殿東庭 ⑧



外から見た皇居正門（二重橋）



千草・千鳥の間の大刈り込み



伏見櫓



富士見櫓



富士見多門・蓮池濠